

音源の比較試聴(48)

—ドボルザークの交響曲第9番新世界—

1. 始めに

前報(47)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じ曲のアナログ盤と STAGE+およびベルリンフィルデジタルコンサートからの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

ドイツグラモフォン MG 1112

アントン・ドボルザーク 交響曲第9番新世界

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮シカゴ交響楽団

ESOTERIC ESLP-10002

アントン・ドボルザーク 交響曲第9番新世界

イシュトバン・ケルテス指揮ウィーンフィル

Victor VIC-3009

アントン・ドボルザーク 交響曲第9番新世界

ズデニク・コシュラー指揮スロバキアフィルハーモニー

Angel AA-8174

アントン・ドボルザーク 交響曲第9番新世界

コンスタンチン・シルベストリ指揮フランス国立放送管弦楽団

ハイレゾファイル音源は上記と同一の曲を選択します。

ステレオサウンド SSHRB-002

アントン・ドボルザーク 交響曲第9番新世界

イシュトバン・ケルテス指揮ウィーンフィル

配信は STAGE+とベルリンフィルデジタルコンサートホールから上記と同一の曲を選択します。

アントン・ドボルザーク 交響曲第 9 番新世界
クラウディオ・アバド指揮ベルリンフィル
アントン・ドボルザーク 交響曲第 9 番新世界
ミルガ・グラジニーテ・ティエラ指揮グシュタード音楽祭管弦楽団
アントン・ドボルザーク 交響曲第 9 番新世界
ラハフ・シャニ指揮ベルリンフィル

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase

ハイレゾファイル音源

fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase

STAGE+およびベルリンフィルデジタルコンサートホール

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

アナログのジュリーニ指揮シカゴ交響楽団盤は、1977 年の録音でシカゴ交響楽団らしいエネルギッシュな演奏が炸裂し、他方、2 楽章などは牧歌的な表情も描きます。ことさらに木管のソロを浮かびだすようなこともなく、オーケストラ全体の調和を重んじる演奏です。

ケルテス指揮ウィーンフィル盤は、オリジナルの 1961 年録音の DECCA 盤のマスターからの ESTERIC のリマスター盤です。以前に LONDON 盤を借りて聴き比べましたが、やはりオリジナルの濃密な表現には及びませんでした。今回、聴きなおしてもエッジが効きすぎて、上記のジュリーニ指揮シカゴ交響楽団盤や下記のコシュラー指揮スロバキアフィルハーモニー盤のような表情の豊かさがありませんでした。

コシュラー指揮スロバキアフィルハーモニー盤は、1972 年の録音ですが、音質はかなりよく、スロバキアフィルハーモニーの本拠地はプラハやウィーンに近いことから東欧のドボルザークの牧歌的な音楽の表情を的確にとらえています。

シルベストリ指揮フランス国立放送管弦楽団盤は、録音年代は不明で、盤の痛みがあり、音質的にはよくありませんが、かなり前のめりの速さでフランスのオーケストラらしいにぎやかな演奏です。

ハイレゾファイル音源のケルテス指揮ウィーンフィルは、オリジナルの DECCA 盤や上記の ESOTERIC 盤のマスターテープから 11.2MHzDSD に変換したものです。ハイレゾらしい緻密で解像度も高く、ケルテス指揮ウィーンフィルの濃密な演奏が再現され、上記のマスターが同じ ESOTERIC のリマスターアナログ盤を超えています。STAGE+の アバド指揮ベルリンフィルの演奏は、イタリアのパレルモのオペラ劇場で

のベルリンフィルヨーロッパコンサートの演奏で、アバドの指揮はベルリンフィルを緻密、かつ繊細によく歌わせる安定した演奏です。

STAGE+のティーラ指揮ベルリンフィルの演奏は、メニューヒンが創設したグシュタード音楽祭の演奏で、若い女性指揮者のティーラのしなやかな指揮で、比較的若い構成のオーケストラのメンバーが元気いっぱいに演奏しています。

ベルリンフィルデジタルコンサートのシャニ指揮ベルリンフィルの演奏は、放送ストーリーミング情報【2026No.398】で報告しましたように若いシャニの切れのよい指揮に応じてベルリンフィルのエネルギーが炸裂しますし、ここぞというところでは、イングリッシュホルンやフルートやクラリネットが静かによく歌います。

4. まとめ

アナログ再生と STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなってきており、それぞれの収録環境や収録年代や指揮者の解釈やオーケストラの力量がよく分かります。

以上